

C協働学習（C2）

主な学習活動

自分たちの動きを確認し、自分やチームの課題を解決するための作戦を考える。

1 本時のねらい

自己やチームの課題や、課題解決に有効な方法や作戦について、自己の考えを伝えることができる。

2 主に活用したICT機器・コンテンツ等

ファイル共有

動画撮影・視聴

3 参考にしてほしいポイント

ファイル共有アプリで単元のノートを作成することで、指導と評価にもつながる双方向のやりとりが効果的にできる。

段階 場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開	パートナーと試合を分析しながら、チームの課題解決に向けた作戦を立てる。	撮影した試合を分析する。（アプリによって、再生速度を変えることが容易にできる。） ポイントとなる場面をスクリーンショットして貼り付け、ポイントの入力を行うことで、分析した内容が分かりやすい。 次時に作成したノートを開けば、分析した内容が出てくる。一つの端末で全てを行うことができる。



自分やチームの動きを動画撮影



動画を保存し、いつでも視聴



改善点



- ・カバーが入れる形になっていない。
- ・パートナーが片方によっているときに半分のコートに誰もいない。
- ・自分が打ちづらいところで打ってるから外しやすい。
- ・打ったあと変な体制になっているからもとの形になるのが遅くなる。

卓志・叶望

動画分析を基に、自分やチームの「よい点」や「課題点」を分かりやすくまとめることができる。

4 活用効果

紙のワークシートに記録させていた時とは違い、動画を分析している時に気付いたことをスクリーンショットして貼り付け、ポイントを記入することが端末一つでできる。そのため、自分が見つけたポイントを分かりやすく保存することができ、いつでも振り返りができる。さらに、保存データを振り返ることで、思考と対話を促すことにもつながった。

5 アドバイザーからのコメント

動画や静止画を撮影して、その場面で気付いた点やよかった点、改善すべき点などを記録することで、写真とテキストが並列に表示されて記憶に残りやすいことが知られています。実際の演示を見るよりも効果が高いことが報告されています。（東京工業大学 赤堀侃司）

自身の動きを動画で確認し、よい点や改善点を静止画として切り取り、その特徴を言語化して検討を進めることは、メタ的に自身の動きを捉えることに役立つと期待されます。特に、動きを分解してよい点や改善点を押さえることで、意識的に反映できる可能性があります。（福島大学 平中宏典）